

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200052		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームはなみの家 (1F)		
所在地	千葉県花見川区大日町1386-2		
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域・ボランティアの方々に支援して頂きながら、入居者様と楽しみながら畑作り、野菜の収穫をし、焼き芋等実際に調理している。</p> <p>・地域の方々、ご家族と一緒にホームの広い芝生の庭を利用し、餅つき、夏祭り・バーベキュー等の催しを皆で協力しながら行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念は「ずっと住みたい家」である。この実現に向けて、全職員は入居者に寄り添い日々の暮らしを支えている。ある入居者が入院先からホームに戻ったときの第一声が「たたいま」だったそうである。ホームが我が家になってきた証とも言え、理念が実践されていることが伺える。また、ターミナルケアに不安があった職員のために協力医による講習を行い、全職員納得のもと受け入れ態勢ができた。ホームは地域との交流にも力を注ぎ、ホームの行事は近隣住民が参加し手伝うまでになっている。地域のなかで、普通に今までの暮らしが継続できるホームである。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1階)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者に「ずっと住みたい家」と思ってもらえるよう取り組み、職員間で理念を共有している。	月1回のミーティングでは職員間で理念の確認を行い、共有を図っている。入居者に寄り添い密に接することで、安心感を与える理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々との共同での畑作り、地域の敬老会、お祭りへの参加等で交流している。	自治会に入会し、地域の敬老会への参加が実現した。また、定期的なボランティアの受け入れや、散歩時の声かけなどで地域住民との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの催し物でお招きした際、又、地域の催し物に参加した際等に説明をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や現在の状況を報告し、意見を伺っている。 又、他施設での取り組みをアドバイスしてもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年3回開催している。参加者は入居者、家族、地域包括支援センター職員、ボランティア代表などで行われている。会議の内容は行事報告や地域との交流が主なものになっている。	会議の年間スケジュールを組み、多方面からの参加者を募ると共に、会議の意義の説明を改めて行い、そこでの活発な意見交換をサービスの質向上に繋げることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回、介護相談員との意見交換、運営推進会議での包括支援センターとの協力等、関係を築いている。	行政との連絡は法人内に行政担当課があり、主には本部で行っているが、ホームとして社会福祉協議会に相談したり、運営推進会議を通じて地域包括支援センターとつながっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアを徹底し、取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては会議、研修などで全職員に周知徹底している。玄関は施錠せずいつでも自由に出入りが出来る状態である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないよう、ミーティング等で全職員に周知徹底している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階で該当者が居ない為、今後必要に応じて活用し支援する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に見学して頂き、不安や疑問点があればその都度説明し、解消してから契約をするようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等で意見・要望を随時聞いている。その他、意見箱を設置する等、意見・要望を反映できるよう取り組んでいる。	家族会を年2回開催し半数以上の家族の参加がある。家族の要望で職員の交代についてはホーム便りで報告をするようにした。また、面会も多くその際には声かけをして意見、要望を聴くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議、リーダー会議、3ヶ月に1回の拡大リーダー会議等で意見・提案を聞く機会を設けている。	月1回の職員会議では全職員に問いかけをし、意見や提案を聞くようにしている。要望で職員の休憩時間の確保が図られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との1対1の面談や電話等で随時話を聞き、各自の要望を考慮するように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・リーダー研修等の内部研修の実施、また、外部研修にも順次参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との研修・食事会等で交流し意見交換する中でお互いの向上を目指している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に体験入居をして頂き、不安点は解消して頂けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に納得の頂けるまで話を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の見学や、体験入居を通じて現状を見極め、当ホームのご利用が難しい場合は、他のサービスを紹介する等の対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中、職員と共に色々お行うことで、一方向の関係にならないようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や催し事の際は、職員と共にご家族にもお手伝い頂き、支援に参加してもらえるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の上で、面会・電話・手紙等で関係が途切れないよう努めている。	入居者の友人が尋ねて来ることもある。電話の取り次ぎ、知人への手紙や年賀状、お盆、正月の外泊など、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、入居者様同士の関わり合いが円滑にいくよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談に来て頂けるような信頼関係作りに努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングで直接ご本人から希望や意向を聴くと共に、日々の生活観察の中で一人一人のスタイルを把握している。	入居者の思いや意向は個別に聞いている。意思表示が出来ない人には、日々の様子・表情から察知したり、家族との話し合いで把握するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後にご本人、ご家族から話を聞き、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を把握・共有できるように、記録、申し送り、会議等にて活良している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮せる為に面会時、往診時、カンファレンス時等に必要関係者と話し合い、介護計画に反映させている。	介護計画は職員、家族、医師の意見を参考に作成している。また、月1回のユニット会議では課題のある人を中心に全入居者のモニタリングを行い、半年に1回の見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録、申し送りノート等に詳細に記録しており、職員間で情報共有・活用できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば個別に外出や通院等の支援を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加すると共に、近隣の警察署・消防署と提携をし、安心した生活ができるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を第一に考え、随時相談をしながら往診医と連携をとっている。	従来からのかかりつけ医への通院は、家族の協力を得て継続して行っている。協力医による月2回の往診があり、24時間携帯電話で直接連絡が取れる体制になっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と密に相談・連携をし、適切な医療が受けられる体制になっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約医療機関との連携はできており、入院の際は早期退院に向けて情報交換や相談を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明すると共に、必要が生じた場合は、常に説明、話し合いをしながら希望に沿った支援ができるようにしている。	昨年、家族の希望もあってターミナルケアを行った。この経験を活かし、医師・職員・家族を含めて研修・勉強会を重ね、早めの対応がされて来ている。看護師も在籍しており、職員の終末期ケアの意識統一が出来つつある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時に発生時に備えて、看護師による研修を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。	年2回の避難訓練を実施している。ホームの敷地が広いことから、自治会長から地域の避難場所にしてほしいとの要請があった。これを期にホーム側からも地域に協力を依頼した。	今後も色々な場面想定の実践の訓練の実施の他、全職員が訓練を経験できるような計画が必要と思われる。また、近隣との共同訓練などの実施を期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉掛けや対応によりプライバシーを守れるよう会議等で話し合い徹底している。	入居者一人ひとりの病歴や知り得た家庭環境を、会話や行動に出さない配慮をしている。失禁等に対しては、周囲に悟られないよう、さりげなく声かけを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合ではなく、入居者様が自己決定できるようその都度伺っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞くだけでなく、日常生活を観察し、一人一人の生活ペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれができるように定期的に外出を企画したり、日常生活でもおしゃれができるような雰囲気作りをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力量を見極めた上で、食事の準備、後片づけを一緒に行っている。	配膳・下膳や食後のテーブル拭きなど積極的な参加が見られる。隣接した畑で職員と入居者が収穫した季節の野菜が食卓に上ったり、入居者の希望で外食することもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事の提供ができています。食事量・水分量は観察・記録し、異変時は主治医・看護師に相談している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後状況に応じて声掛けをし、自分でできない部分のみ介助を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から一人一人の状態を把握し、声掛けやトイレ誘導により、おむつを使用しない方向の支援をしている。	排泄チェック表に基づく声掛けや見守りで、リハビリパンツから布オムツに改善された事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と相談しながら個々に応じて水分摂取、運動等の支援をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は必ずご本人の希望を聞いている。拒否が続く場合は、自然な入浴になるよう個人のタイミングや言葉掛けに注意している。	基本は週3回の入浴であるが、毎日入りたいという希望には、職員の体制が整えば応じるようにしている。入浴拒否に対しては、様々のタイミングを計って誘導している。また羞恥心・恐怖心等には同性介助にする等の配慮をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はご本人のペースでとってもらっているが、夜間に一番安眠できるように日中の運動を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携を密にしており、処方薬の理解に努めると共に毎日の服薬確認・状態変化の記録をとっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合った役割をもって頂いている。散歩、畑仕事、折り紙、カラオケ等気分転換が図れる支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様に希望を聞いて、外出・外食等行っている。ホームでの対応が難しい場合は希望の実現ができるようご家族にも協力して頂けるよう対応している。	天気が良ければ順番で毎日戸外に出かけている。ホーム建物の周囲は舗装されており、車椅子でも回れる様になっている。また、お墓参りなどの外出は家族の協力を得て支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



グループホームはなみの家 自己評価(1階)・外部評価(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたいという気持ちを大切にし、一人一人の現状に応じて所持・使用を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・関係者に相談の上、希望が叶えられるように状況に応じて支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激の配慮はもちろんのこと、季節に合った植物、野菜、飾りつけ、手作りカレンダー等の設置をし、安心して過ごせるよう配慮している。	2階の天井は吹き抜けとなっており、木の温もりが伝わって来る。また、ウッドデッキは広々していて開放感がある。季節を感じさせる入居者の作品がほどよく飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでくつろげるようにソファを設置したり、ウッドデッキのベンチで自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物、好みの置物や植物を持ってきて頂き設置、飾る等して、居心地良く過ごせる居室になっている。	居室はシンプルで清潔感がある。一人ひとりが馴染みの品を持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等のバリアフリー構造、角のない造りにより安全を確保しつつ、車椅子でも自立した生活が送れるようになっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所